

大槌

広報おおつち NO.588
2014年8月5日

目次

3	吉里吉里海水浴場で海開き	17	すくすく赤ちゃん PHOTO まちかど 町長随想
4-11	復興通信 私たちがつくる私たちの新しいまち ～⑤安渡地区 復興を支える人 支える団体 産業復興だより おおつち海の勉強室	18-19	ひょうたん島日記
12-14	都市整備課からのお知らせ ほか	20-21	教育委員会だより 城山の風 第78号
15	大槌町地域包括支援センターのページ 楽笑高齢者になろう ほか	22-23	まちのお知らせ 大槌町カレンダー
16	保健だより	24	大槌学のすゝめ 編集後記

子どもたちの歓声響く

吉里吉里海岸海水浴場で海開き

大槌町の吉里吉里海岸海水浴場が7月26日、海開きしました。海開きは震災後初めてで、4年ぶりのことです。町内の小中学校はこの日から夏休み。夏の日差しが照りつける浜辺には、子どもたちの歓声がこだましました。



海水浴場が復活したのは、吉里吉里海岸のうち幅約130メートル、岸から沖へ約50メートルの区域。海岸全体の約3分の1にあたります。海岸では、岩手県が防潮堤の建設を計画し、工事の進み具合で来年以降は海開きができない可能性があります。しかし、「子どもたちに海を体験させたい」という地元住民の要望を受け、町が、工事に支障がない範囲で開設を決めました。海開きにあたっては、ボランティア団体や地元の人たちが海岸を清掃し、砂浜や海中に、がれきや障害物がないことが確認されました。

海開きの26日は、夏空の下、気温がぐんぐん上がり、海水浴日和になりました。

表紙の写真：吉里吉里海岸で海開き＝7月26日

定点観測（2014年7月21日、城山から）



吉里吉里海岸海水浴場の海開きに合わせ、7月26日、海岸では様々なイベントが繰り広げられました。

「砂の祭典」は昨年、20年ぶりに復活。今回も多くの人たちが、砂の彫像に挑戦しました。主催したのは町内の若手経営者による「はまぎく若だんな会」。代表の芳賀光さん（39）は「吉里吉里と海は切り離せない。子どもたちには海の楽しさを味わってほしい。参加者は海水で砂を固めながら3時間。「南部鼻曲がり鮭」「グロップ」など、様々な作品が完成しました。



ブイで囲まれた遊泳区域の外では、スタンドアップ、パドルサーフィンやシーカヤックの体験会が開かれました。パドルサーフィンの体験会は浪板でサーフィンを営む杉本浩さん（46）が中心になって企画しました。ボードが大きく安定しているので、子どもからお年寄りまで手軽に楽しめます。初めてボードに乗った町役場職員の内金崎快さん（23）は「難しくなく楽しかった。浜が震災前と同じように、大勢の人でにぎわってうれしい」と話しました。

砂浜は親子連れの姿が目立ちました。海開きは、地元の人たちの切なる願いでした。吉里吉里中学校PTA会長の芳賀新さん（44）はこう話します。「子どもたちには、海の恐ろしさと同時に、海の素晴らしさを知ってほしい。海開きをそのきっかけにしたかった。美しい吉里吉里の海で楽しい思い出をいっぱい作ってほしい。」

海開きの期間は8月10日までの16日間。時間は午前8時半から午後3時。現地に簡易トイレを設置、近くに駐車場、シャワー設備が用意され



ています。町によると、同海水浴場は震災前、シーズンに約2万4000人が来場。来季以降は、防潮堤工事の状況を見ながら開設するかどうか判断します。